

平成22年度 福平中学校職員研修の最終報告

1 はじめに

本校では、昨年度まで「生徒たちが充実した学校生活を送るための指導のあり方」を研究テーマとして、「学習指導」「生徒指導」の2班に分かれて研究を行ってきた。

学習指導面において、授業に真剣に取り組もうとする生徒が多く見られるようになったことは、テーマ研修の中で指導項目を絞り、全職員で取り組んできた成果の現れであると考えます。

また、生徒指導面でも、生徒が学校生活を送る上でのルールについて、学年・学級等で徹底した指導がなされるようになった。その結果、完全には言えないまでも、比較的落ち着いた学校生活を送れるようになり、大きな成果をあげている。

しかし、授業に対して私語をせず、黙って聞いていればよいという考えや、教師からの指示を正確に聞き取っていないこと、また指示を受けてから行動するといった受け身の姿勢が見られるのも事実である。本来、子どもたちは、「学習しなければならない」という気持ちは持っているものである。にもかかわらず、積極的に学習に取り組むことができないのは、授業で身につけるべき基礎的・基本的な知識や技能の定着が十分でないために、「どうせ自分にはできない」「やっても学力は身につかない」というように自らの行動に自信を持つことができないからではないだろうか。

そこで、子どもたちは基礎的・基本的な知識や技能を習得することで、学習意欲が向上し、自分の行動や考えに自信を持つことができれば、将来の社会生活において、主体的に生きるのに必要な力、いわゆる「生きる力」を身につけさせることができるのではないかと考え、下記のようなテーマを設定し研究を進めた。

学習意欲の向上および、基本的な知識・技能の習得を通して、「生きる力」を持った生徒を育てるにはどのようにあればよいか。(1/2)

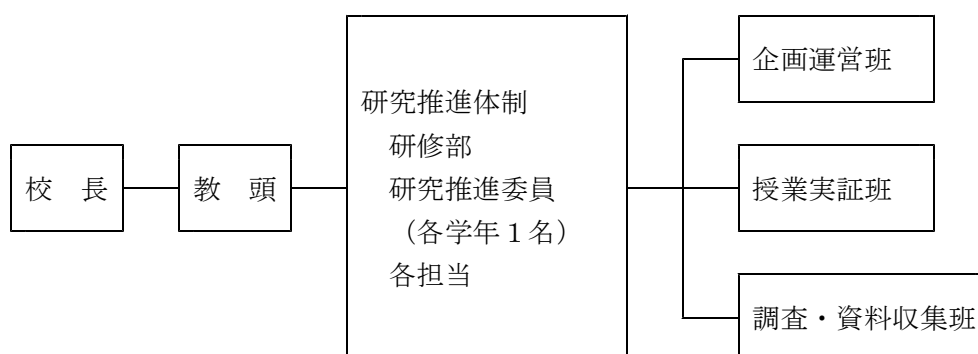
2 研究の進め方

(1) 研究の視点

- ① 各教科における基礎的・基本的な知識・技能の習得のための工夫
- ② 思考力・判断力・表現力を高める授業のあり方の工夫
- ③ 探求的な授業のあり方の研究
- ④ 学習意欲の向上と学習習慣の確立

(2) 研究体制

職員の研修体制を、「企画運営班」「授業実証班」「調査・資料収集班」の3班に分けて年間計画に従い、研究・実践を進めている。



3 研究の実際

(1) 研究授業

本校では、教科の特性や単元に応じて、研究の視点を明確にした研究授業を行い、それぞれの教員が授業改善に役立ててもらおうことを目的に研究を深めてきた。

【国語科研究授業より】

- ① 実施日 平成22年10月27日（水）
- ② 対象 2年3組（男子16名，女子18名，計34名）
- ③ 教材名 「走れメロス」
- ④ 本時の目標

場面4を読んで、メロスに襲いかかる様々な困難を明らかにし、「なぜメロスは走ることをやめたのか」ということについて考えさせる。

⑤ 本時の実際

過程	時間	学習内容及び学習活動	指導上の留意点
導 入	3	1 前時の学習を想起し，学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">どうしてメロスは，大切な約束だった走ることをやめてしまったのだろうか？</div>	○ 学習の流れを提示し，本時の学習目標，学習課題，進め方を明確にする ○ 場面4の冒頭部分を読んで，走ることの意義についてとらえさせる。
	7	2 場面4の冒頭部分から，メロスが走らなければならない理由について考える。	・ 「殺されるために」「友を救うため」「王の奸佞邪知を打ち破るため」「大切な約束のため」
	5	3 メロスが走ることをやめた原因について自分なりに考えをまとめる。	○ 自分の考えをノートにまとめさせる。 ・ 「疲れたから」「あきらめたから」「走りたいけど疲れから体が動かないから」「友を裏切り，自分が生きることを考えたから」
展 開	9	4 メロスに襲いかかる困難についてまとめる。	○ メロスに立ちはだかった困難とはどのようなものがあつたかを発表させる。 ○ ペアで，段階的な学習課題に対して表現に即した読み取りを行う。
	15	5 身体の疲労に対してメロスがどのように変化していったかを読み取る。 ・ 自分自身，弱い自分に負けそうになった経験がないか考える。	○ 話し合いのポイントを絞らせる。 P88L36「いや，それも私の独りよがりか？」という表現のもつ意味に注目させる。少人数のグループを形成させて，「3」の予想や学習してきたことを基に，走ることをやめた理由についてまで考えさせる。
終 末	6	6 どうして，メロスは走るのをやめたのかということについて自分の考えを見直す。	○ 表現に即して読みを進めさせ，「川の氾濫」や「山賊の登場」といった物理的な障害ばかりでなく，身体や精神の疲労も大きな障害となったことが読み取れたか。 ○ メロスの行動に肯定的で美化した考えだけではなく，メロスの苦悩や葛藤する姿を表現に即してつかむことができたか。
		7 本時の学習の自己評価をおこない，学習のまとめをする。 8 次時の学習についての確認をする。	○ 本時の学習の成果について，適切に自己評価させる。 ○ 次時は，メロスが再び走り始める場面の学習を行うことを伝える。

⑥ 本時の評価

ア 場面4を読んで、メロスに襲いかかる様々な困難を明らかにできたか。

イ 「なぜメロスは走ることをやめたのか」について、友の命がかかった大切な約束にかかわらず、身体の疲れから走れなくなったメロスは、友と信じ合う心までも失ってしまったからと考えることができたか。

⑦ 本校研究テーマとの関連と授業設定の視点

【視点①との関連から】

- ・ ノートを教材に関する欄と基本的な知識に関する欄に分ける。
- ・ 感覚だけに頼るのではなく、心情描写・情景描写などに着目させ、心情をつかませる。

【視点②との関連から】

- ・ 読み取りに必要な部分にサイドラインを引く習慣をつける。
- ・ 感想や疑問点などを人物や場面、内容などに分類してまとめたものを生徒に提示し、意見を交流し合う場面を設ける。

【視点③との関連から】

- ・ 課題解決学習を進める中で、個・ペア・グループなどの形態をとり、よりよい解答を模索させる。
- ・ 自分の意見を正確に他者に伝え、他者の意見に耳を傾けることで、自分のものの見方や考え方を広げさせる。

【視点④との関連から】

- ・ 「わかりません」で終わらず、自分の答えを持たせるようにする。
- ・ 単元ごとに、読み取りのコツ、ポイントを明確に示して理解させる。

(4) 授業研究より

① 授業者反省

学級内の学力差が激しい。黙読ではなく、音読をさせた。発問を仕方が悪いところがあった。グループでいろいろな意見を聞く中で、生徒の理解が深まった。

② 質疑応答

Q 「読むこと」を高めるために授業の中で工夫したこと

- ・ 説明文と小説とあるが、生徒は9割方主人公の気持ちになって読む。できるだけ感覚に頼らず論理的に読む。文章の中から心情を読み取るためみんなの意見を聞けるようにする。

Q ペア音読・座席の工夫

- ・ 音読させることで、ペア間で間違いを意識させる。男女のペアでは照れて読みにくい。

Q 基礎学力アップのために実践していること

- ・ 数学では宅習ノートや昼休みを利用して個別指導をしている。
- ・ ワークシートや振り返りカードを使ってどれだけ定着しているか確認している。
- ・ プリントのファイリングをさせている。
- ・ 理科では根拠と結果を明らかにするようにしている

Q 「聞く」と「見る」と得意な生徒がいて、書くことに精一杯の生徒もいる

- ・ リズム良く、印象に残りやすいようにしている。「書く」「聞く」の時間はできるだけ分けている。

③ 指導助言

- ・ 授業を設計する上で大切なものは、「学習目標の明確化（板書による掲示）」「ヤマ場の設定」「見届け、確かめ、まとめの徹底」である。1単位時間の授業設計をする中でしっかりと検討したい。
- ・ それぞれが指導技術を向上させるためにとっても工夫された授業だった
- ・ すべての場面に勢いがあった。息抜きの時間もあって良かったのではないか。

4 研修のまとめ

(1) 下記の通り年度当初に立てた計画に従って、研修を進めていくことができた。

	月 日	主 な 内 容
1	4月30日	・生徒指導事例研修（全職員で共通理解しておくべきことについて） ・本年度の職員研修について計画
2	5月24日	・テーマ研修 研究テーマに沿って、具体的な実践
3	5月31日	・テーマ研修 I C Tを活用して、簡単にできる映像や音声を取り入れた授業の展開
4	6月21日	・小中連携研修会 福平小学校で授業参観及び研究討議
5	7月12日	・テーマ研修 標準学力検査の結果を受けて生徒に具体的にどう関わっていけば良いか。
5	8月 3日	・特別支援教育
6	8月21日	・忙しい校務を助けてくれる， I C Tの活用方法について
7	10月27日	・テーマ研修（学力向上対策事業プラン） 研究授業を通して，生徒の学力と学習に向かう気持ちを高めていくか
8	11月29日	・より良い生徒とのかかわりを目指して 生徒や保護者と良い人間関係を構築できる言葉遣い，カウンセリングの技法
9	12月13日	・情報モラルの指導について ケータイやネット掲示板を使ったトラブルへの対処方法
10	1月24日	・人権同和教育
11	2月14日	・本年度の1年間の実践のまとめ，研修の反省等 ・平成23年度の研修の方向性

(2) テーマ研修の本年度反省と来年度の課題について

① 企画・運営班

- ・ 研究授業の録画などして記録しているが，授業研究などの時間が十分にとれなかった。
- ・ 授業提供があっても，参観者が学年や教科などに限定される。自習にして参観することも難しい。
- ・ 来年度は，学期ごとにテーマの進捗状況を確認するなど，評価・改善を繰り返した研究実践に努めたい。
- ・ 来年度の小・中連携研修会を6月10日（金）に実施する。2教科の研究授業を予定しているが，学校全体としての発表にできるように，研究のテーマや視点を再確認し，全教科で研究を行う体制を整備する。

② 授業実証班

- ・ 学習のしつけを意識して指導したことで，聞く，考える，書くなどの切り替えができるようになった。研究授業では，1年生だったので素直な態度で授業に望んでいたが，2・3年生でも定着させたい。
- ・ 学力の二極化への対応として，個人差に応じた授業展開や発問の工夫をどのようにすればよいか，さらに研究を積み重ねる必要がある。
- ・ 学習形態の工夫，I C T機器の活用，調べ学習や発表の場を多く設けるなど，生徒の主体的な活動を促す工夫に努める。

- ・ 始業1分前の入室，授業の始めと終わりのあいさつ及び黙想の指導，学習目標の提示など教員の共通実践項目を確実に実施する。

③ 調査統計班

- ・ 今年度は，活動があまりできなかったもので，来年度は今年度実施された，標準学力検査やAAI検査の分析結果をまとめ，授業に活かしていきたい。
- ・ 小中連携研修会のテーマに基づいて，授業や学習についての意識調査をまとめる。（教師向け・生徒向け）
- ・ 資料の作成のためにアンケート内容の検討を行う。

5 終わりに

本年度は計画されたとおりの研修を終えることができた。生徒が比較的授業を落ち着いて受けることができるようになってきたのは成果である。このことは，授業中の態度のしつけを全教科で徹底して指導し，また「わかる授業」づくりに努めてきた結果であると考えている。昨年整備されたICT機器も少しずつではあるが，多くの教員が試行錯誤しながら授業で活用するようになった。こういう教員の側の確実な実践の積み重ねが生徒の変容へとつながっているものと考え

る。

来年度は，小・中連携研修会の会場校であり，また学力向上総合プランによる授業公開も予定している。このような機会を生かし，本年度の反省をもとに，校内研修体制の整備に努めたい。